

東京都写真美術館年報

2014 - 2015

TOKYO
METROPOLITAN
MUSEUM
OF
PHOTOGRAPHY

東京都写真美術館年報／2014-15
Annual Report: Tokyo Metropolitan Museum of Photography
2014-15

はじめに

東京都写真美術館では、明日に向けた美術館づくりのため様々な事業に取り組みました。リニューアルを機に、作品収蔵の目的など写真美術館の基本的なあり方を再確認することとし、平成26年度の目標を「未来を創造する美術館づくり」として、休館までの年度の前半に展覧会ほかギャラリートーク、シンポジウムなどの内容を充実させました。

展覧会事業では、当館所蔵のコレクション展、調査・研究に基づいた多彩な企画展など、関係団体、企業、出品作家の協力のもと、12の展覧会を開催しました。展覧会では、身近に感じていただけるよう出品作家や当館学芸員によるギャラリートーク、対談のほか、図書館司書による関係資料紹介などを積極的に進めました。

教育・普及では、一年を通して学校と連携したスクールプログラムや初心者から上級者までを対象とした当館ならではのワークショップを開催し、写真や映像を通じて豊かな学習の場を提供してまいりました。

さらに、映画ファンの期待にも応える美術館として、「アート&ヒューマン」をテーマに選んだ映画を休館までに7本上映し、幅広い年齢層のお客様にご鑑賞いただきました。

7回目を迎えた「恵比寿映像祭」では、「惑星で会いましょう」をメインテーマに、平成26年度は、休館に入った美術館を飛び出し、地域との連携も深めながら恵比寿ガーデンプレイス、日仏会館などで平成27年2月から3月にかけて開催し、国内外の作家、ゲストによる映像作品の展示、上映などさまざまなプログラムを実施いたしました。

写真美術館の基盤をなす作品収集は、東京都をはじめ当館の支援会員である企業・団体、作家のみなさまからのご支援により厳選した質の高い作品、歴史的にも貴重な作品1,060点を、新たなコレクションとして加えることができました。

近年の来館者数の増加や諸室の使用用途の変化などを踏まえたサービス及び施設の魅力の向上並びに経年劣化への対応を目的に大規模改修工事を行うため、写真美術館は、平成26年9月24日から約2年間にわたる休館に入りましたが、平成7年の総合開館以来、平成26年度末までに650万人を超えるお客様を迎えることができました。

休館の後の年度後半は改修工事を控え、3万点を超える収蔵作品資料と約4万冊の図書、雑誌約5万冊の資料をそれぞれ外部倉庫に預け入れ、作品データの充実やリニューアル・オープンのための準備を行い、事務室も神田リニューアル準備室へ移転しました。

平成27年度は休館中となり皆様にご不便をおかけしますが、「恵比寿映像祭」の開催、スクールプログラムなど教育・普及事業の対外的活動を継続するほか、リニューアル・オープン後の20周年記念展の開催準備などに精力的に取り組んでまいります。

本書が、みなさまにとって当写真美術館を知るための参考になれば幸いです。

目次

平成26年度事業

東京都写真美術館の基本的性格	5
東京都写真美術館の事業内容	6
東京都写真美術館の戦略的運営	7
展覧会事業	13
教育普及事業	21
作品資料収集／作品収集実績	28
平成26年度収蔵作品の紹介	31
調査研究・普及活動（個人）	36
広報事業	40
保存科学研究室	45
図書室	47
実験劇場	49
友の会	53
支援会員	54
ミュージアムショップ／カフェ	58
作品資料及び事務室の移転	59
数字からみた写真美術館	60
条例	65
施行規則	68
開館の経緯／組織図	70
平面図／施設面積／建物概要／設備概要	71
利用案内	73



東京都写真美術館の基本的性格

東京都写真美術館は、我が国初の写真の総合的専門美術館です。中心となる「写真美術館」に、映像分野全般について、文化と技術の両面から総合的にとらえ体験できる「映像工夫館」*を付設した、多くの都民にとって親しみやすく、また多様な関心に応えることが可能な新しい文化施設です。そしてこの美術館は、次のような基本的性格を持っています。

- a 写真の総合的専門美術館として、収集、展示、保存、修復、調査、研究、普及などを含めた総合的な活動を行います。
- b 写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場とします。
- c 写真芸術・文化を普及するために、人々が気軽にすぐれた写真作品を鑑賞し、学ぶとともに、美術館の諸機能を積極的に享受できるような、開かれた施設とします。
- d 写真に関するあらゆる情報を集約するとともに写真を含む映像全般に関する調査・研究を行う施設とします。
- e 日本における写真文化のセンター的役割を果たすとともに、国際的な交流の拠点となることを目指します。
- f ワークショップなど参加型機能をもつとともに、人々の創作活動をサポートする施設として、国内外の写真作家や人々が広く交流しうる場を備えた施設とします。
- g 歴史的な映像文化に関する展示と最先端の映像表現を体験的に享受できる「映像工夫館」を併設し、映像メディアの発達の歴史を学ぶとともに多様な表現の可能性を探ります。

(平成3年8月東京都策定「東京都写真美術館基本計画」より)

*なお「映像工夫館」では現在「地下1階展示室」として「映像展」をはじめ各種展覧会を開催している。

東京都写真美術館の事業内容

1. 展覧会事業

3階、2階、地下1階に設置する約500㎡の3つの展示室で、年間を通じて展覧会を開催。収蔵している約3万点以上の写真・映像作品を中心に紹介する収蔵展のほか、支援会員の支援を基に実施する自主企画展、他団体との誘致展など多種多様な企画を実施する。

2. 教育普及事業

講演会やカフェ・トーク、ワークショップ（写真ワークショップ、映像ワークショップ、子どもワークショップ）、スクールプログラム（小学校、中学校、高等学校などとの連携授業）、ガイドツアー、美術館ボランティア事業などを実施する。

3. 作品資料収集

収集の基本方針および写真作品収集の新指針に基づき、写真および映像作品・資料、写真機材などを収集、保存、管理。収蔵作品の閲覧サービスを実施する。

4. 調査研究

国内外の写真史、映像史、美術史や写真論、映像論、美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロスオーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウムなどに反映させる。

5. 広報事業

展覧会、写真・映像文化の普及をはじめとした事業に関する広報宣伝（記者懇談会、写真美術館ニュースの発行、チラシ等配布、ホームページ管理・運営、広報イベントの企画・運営、ポスター、外壁ディスプレイシート、懸垂幕の掲出など）。

6. 情報システム

収蔵作品および図書資料の収集、登録、管理、運用ができるようデータベースを整備する。情報検索システムを利用し、来館者向け検索サービスを実施する。

7. 保存科学研究室

展示および貸出前後における収蔵作品の状態調査、収蔵条件および展示条件の決定、収蔵作品の修復および展示室の環境調査、写真資料の保存・修復に関する研究を行う。

8. 図書室

図書資料の収集、整理、保存、閲覧サービス、レファレンスサービス、調査研究の支援を行う。

9. 実験劇場

1階ホールで、将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品の中から、写真美術館にふさわしい映画を先駆けて上映を行う。

10. 支援会員

写真・映像に係わる文化や芸術等の振興をはかるとともに、東京都写真美術館の活動を支援することを目的として、法人支援会員制度を設立し、より多彩に充実した事業を展開させる。



東京都写真美術館の戦略的運営

東京都写真美術館のミッション

東京都写真美術館は、平成7年に恵比寿ガーデンプレイス内に総合開館しました。わが国初めての写真と映像に関する総合美術館として開設され、写真・映像の文化の発展を目的に誕生しました。開館10周年を経た今日、当館運営に当たってのミッションは以下のとおり考えます。

平成18年3月2日 東京都写真美術館館長
福原 義春

「わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、 センター的役割を担う存在感のある美術館を目指します。」

<過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館>

貴重な作品や資料を的確に収集・保存し、将来の写真・映像文化発展の礎とします。また、次世代の文化の担い手である子供や若者達に積極的に文化発信を行います。

<質の高い写真・映像文化と出会う美術館>

社会との関連性や、国際動向を十分踏まえ、収蔵コレクションの有効活用や、調査研究に立脚しながら、質が高く満足度の高い展覧会を実施します。

<写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館>

美術館での体験を通じ、写真・映像の技法や表現に関する理解を深めるとともに、新たな文化創造を支援する刺激のある場とします。

<写真・映像文化の拠点として貢献する美術館>

国内外の美術館、関係機関との連携を深めながら、写真・映像文化の拠点として、多様な事業を推進する上で貢献できるよう努めます。

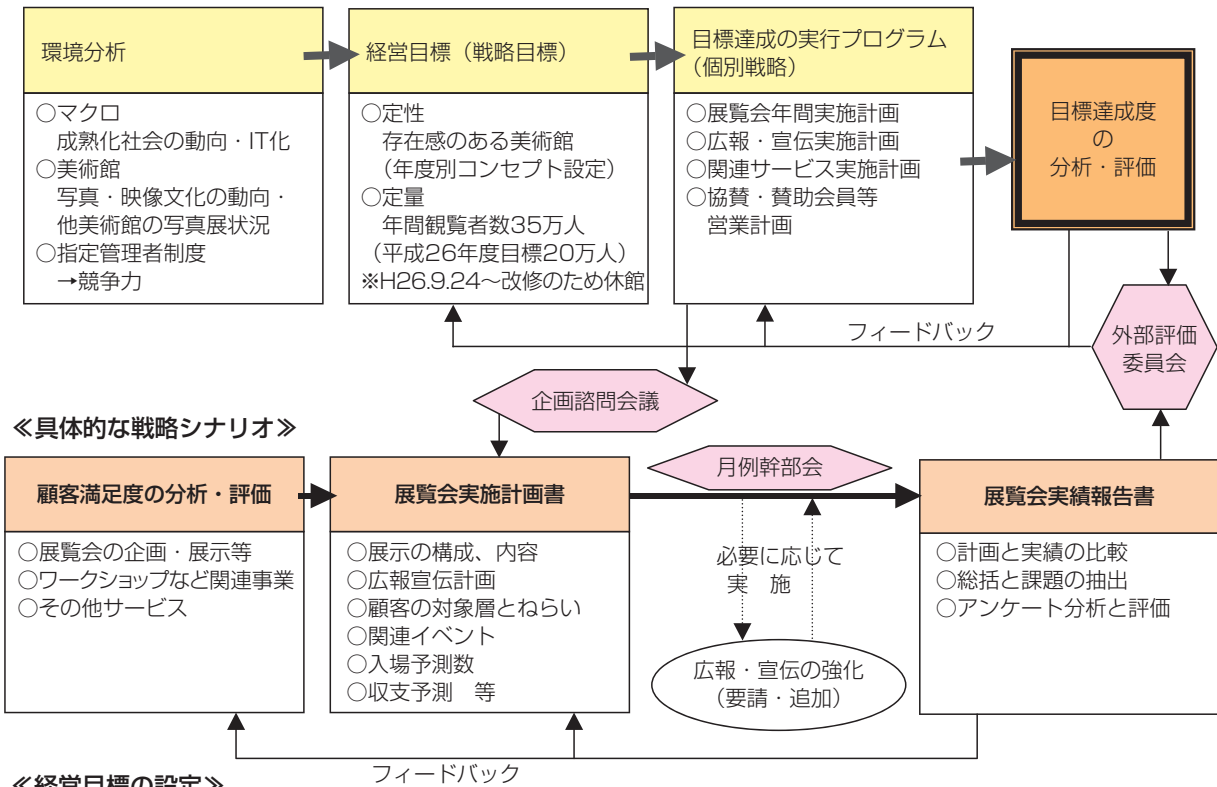
<開かれた美術館>

来館者の視点に立ち、人々に広く活用されるとともに、企業、団体、ボランティア等の参画を募り、開かれた美術館とします。

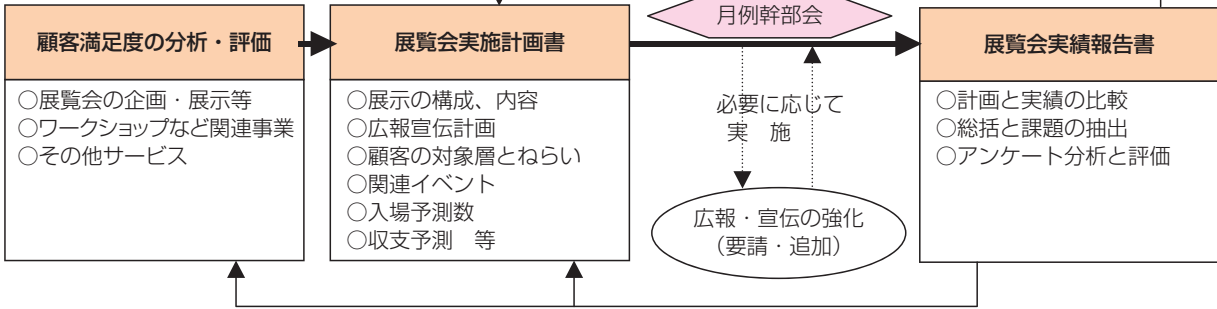
当ミッションは平成18年3月2日に策定した。

東京都写真美術館における戦略的運営システム

東京都写真美術館では、民間企業で取組んでいる戦略的経営の考え方や視点を参考にして運営システムを構築しており、環境分析から戦略目標、個別戦略、事業計画さらには目標管理まで一連の仕組みを定めている。



《具体的な戦略シナリオ》



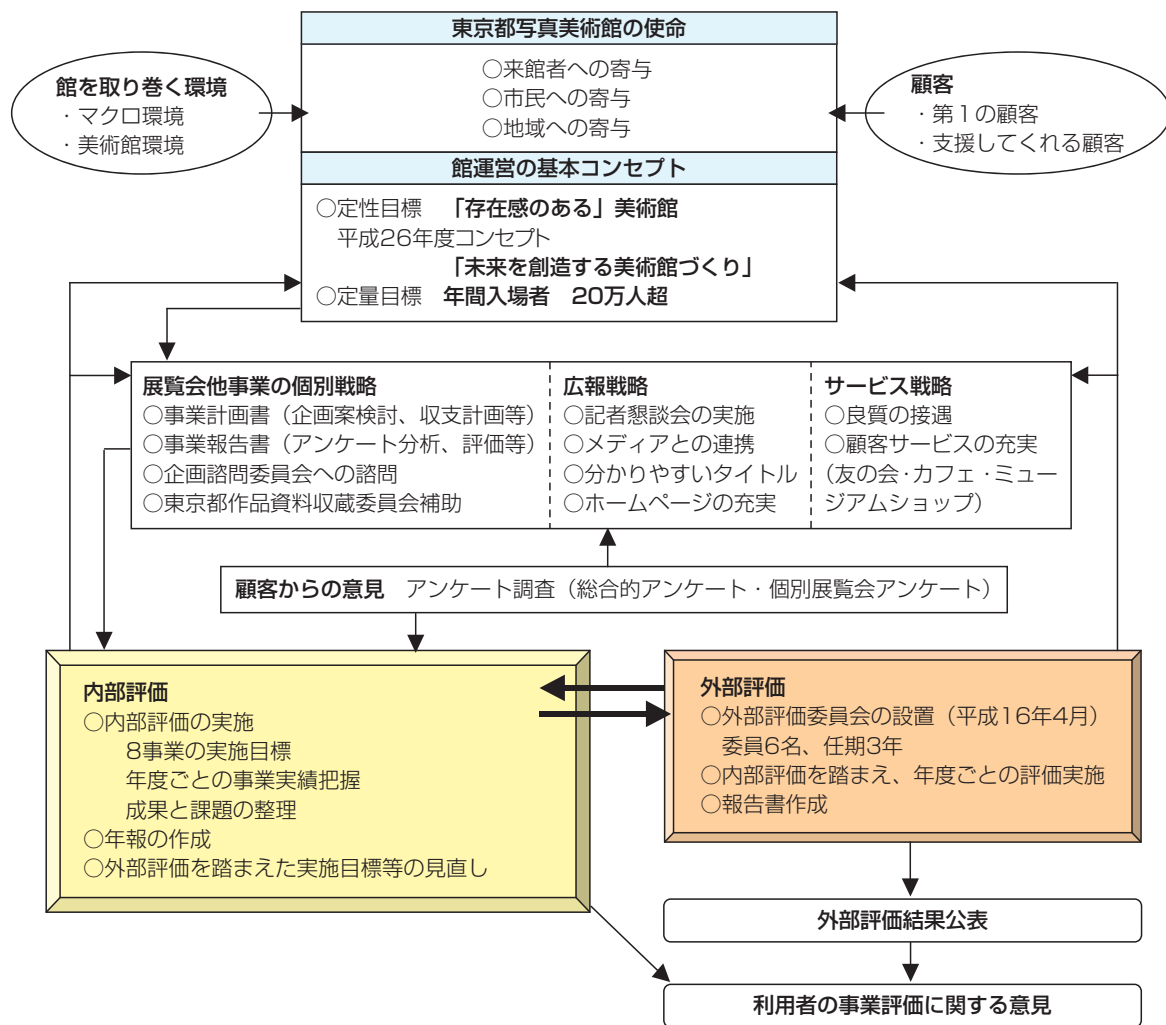
《経営目標の設定》

定性目標		「存在感のある」美術館運営	
とりわけ来館者が「また来たい」と思う魅力的な展示と雰囲気を目指す。			
○写真愛好家にとどまらず、幅広いジャンル(美術・音楽・映画等)の愛好家が多く来館し、館の存在を一般的に周知できること。			
○日本を代表する写真美術館として、写真・映像のセンター的役割を果たすとともに、新しい創造活動の展開の場とすること。			
★年度別コンセプト			
平成13年度	「静かな賑わい」	平成20年度	「顔が見える美術館」
平成14年度	「写真(映像)とは何かを伝える」	平成21年度	「交流を広げ、つながりを強める美術館」
平成15年度	「感動を与える」	平成22年度	「お客様のニーズにチャレンジ！」
平成16年度	「明るく迎える美術館」	平成23年度	「広報マインドと実践」
平成17年度	「信頼される美術館」	平成24年度	「発信、写美から世界へ」
平成18年度	「判りやすく説明する美術館」	平成25年度	「楽しみ方いろいろ美術館」
平成19年度	「対話する美術館」		
		平成26年度 「未来を創造する美術館づくり」	

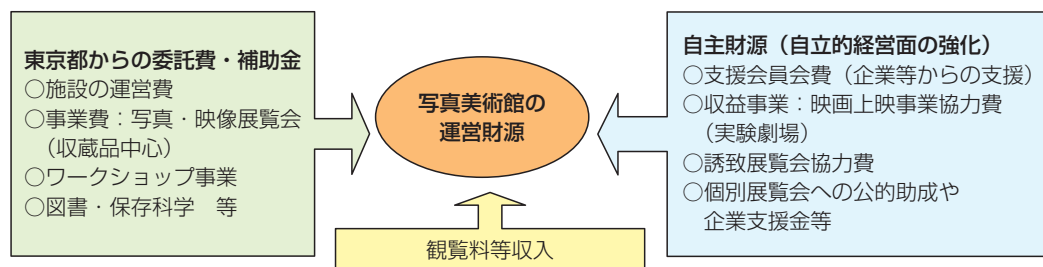
定量目標	平成26年度入館者 20万人超		
平成13年度	227,183人 (前年度比 1.04倍)	平成20年度	415,456人 (前年度比 1.14倍)
平成14年度	364,307人 (// 1.6倍)	平成21年度	428,514人 (// 1.03倍)
平成15年度	413,289人 (// 1.1倍)	平成22年度	427,223人 (// 0.99倍)
平成16年度	431,521人 (// 1.04倍)	平成23年度	429,657人 (// 1.01倍)
平成17年度	441,705人 (// 1.02倍)	平成24年度	407,382人 (// 0.95倍)
平成18年度	443,107人 (// 1.01倍)	平成25年度	404,256人 (// 0.99倍)
平成19年度	365,871人 (// 0.83倍)		
		平成26年度 238,844人 (前年度比0.59倍)	

※大規模改修工事のためH26.9.24から休館

館運営と事業評価の概念



運営財源



平成26年度 コンセプトと取組み

中長期的な目標である「存在感のある美術館」を達成するための活動として、平成26年度のコンセプトを設定した。

「未来を創造する美術館づくり」

展覧会、教育普及事業、実験劇場をはじめとして、写真・映像の魅力をさまざまな形で発信する写真美術館の活動を広く普及し、潜在的なお客を増やす取組みを行った。

◆ 展覧会

- ・魅力あふれる12の展覧会を開催し、写真映像文化の発展に寄与
- ・担当学芸員による多彩な関連事業の展開（フロアレクチャーや関連レクチャー、シンポジウム、トークセッション、ワークショップや鑑賞プログラムなど）

◆ 作品管理

- ・既収集作品の著作権処理や作品データの整備
- ・大規模改修工事に備えた全作品の外部美術品倉庫への搬出

◆ 教育普及事業

- ・アウトリーチ活動の充実（次世代の写真映像文化を担う子どもたちへの出張授業を展開）



◆ 恵比寿映像祭

- ・さまざまな方法による映像表現の紹介（展示、上映、ライブ・イベント、シンポジウム、レクチャー等）
- ・近隣施設との連携強化

◆ 実験劇場関連事業

- ・上映後のアフタートーク・イベントなど、実験劇場の上映作品をより楽しむプログラムを実践

◆ 図書室

- ・図書検索システムの充実（図書システムをクラウド版に更新）
- ・大規模改修工事に備えた約9万冊の図書の外部倉庫への搬出
- ・写真映像の専門図書室として役割を果たす基盤づくり（書誌データの充実）

◆ 友の会向けイベント

- ・特別内覧会・ワークショップ「モノクロ銀塩プリント(ハイブリッド方式)」の開催
- ・図書室と連携した企画として「金子学芸員『写真集の魅力を読む』」を実施

◆ 支援会員向けイベント

- ・支援会員向けにギャラリートーク・講演会を実施

◆ 広報活動

- ・展覧会告知と休館告知の両面から、積極的な広報の展開
- ・クロージングイベント・レセプションでの未来の写真美術館への期待感演出
- ・新シンボルマーク・ロゴタイプ制作、20周年史の編纂

◆ その他

- ・次代を担う人材の育成（博物館実習、体験型インターン、高知県立美術館や大和日英基金によるケンブリッジ大学大学院生の受入など）
- ・リニューアル・オープン後の国際展準備

平成26年度 会議実績

企画諮問会議

座長	建畠 哲	京都市立芸術大学学長
副座長	林 道郎	上智大学国際教養学部教授
	倉石 信乃	明治大学大学院理工学研究科教授
	蔵屋 美香	東京国立近代美術館美術課長
	岸 桂子	毎日新聞学芸部副部長
	神谷 幸江	広島市現代美術館学芸担当課長
	浅葉 克己	アート・ディレクター

開催日 平成26年9月18日（木）
議 題 平成25年度実績及び平成26年度活動方針について
リニューアル以降の展覧会事業について

外部評価委員会

座長	樺山 紘一	印刷博物館館長
副座長	鈴木杜幾子	明治学院大学名誉教授（文学部芸術学科）
	三浦 篤	東京大学大学院総合文化研究科教授
	清水 真砂	世田谷美術館学芸部長
	小川 敦生	多摩美術大学美術学部芸術学科教授 （元日本経済新聞社文化部記者）
	矢野 富子	東京都写真美術館ボランティア

第1回外部評価委員会
開催日 平成26年4月22日（火）
議 題 外部評価方法の確認及び平成25年度事業実績について
報告

第2回外部評価委員会
開催日 平成26年5月29日（木）
議 題 平成25年度事業全部門について総括と最終評定を討議

作品資料収蔵委員会

【収集部会】	
委員長	高階 秀爾 大原美術館館長
	岡野 晃子 IZU PHOTO MUSEUM館長
	香川 檀 武蔵大学人文学部教授
	榎木 野衣 多摩美術大学美術学部教授
	竹内万里子 京都造形芸術大学准教授
	田中 正之 武蔵野美術大学教授

【評価部会】	
石井 孝之	タカ・イシイギャラリー代表
和光 清	ワコウ・ワークス・オブ・アート代表取締役
太田 泰人	女子美術大学芸術学部教授（特任）
松永真太郎	横浜美術館学芸員
佐谷 周吾	シュウゴアーツ代表
杉山 悦子	世田谷美術館企画担当課長
増田 玲	東京国立近代美術館主任研究員
光田 由里	公益財団法人渋谷区美術振興財団学芸員

開催日 平成26年9月4日（木）
議 題 平成26年度新規収蔵作品の選定

記者懇談会

開催日 平成26年6月19日（木）
議 題 ・平成25年度事業実績報告
（第6回恵比寿映像祭実績報告を含む）
・受賞報告
・平成26年度事業計画の紹介
・平成26年度企画展の紹介
・大規模改修工事の概要、休館中の美術館の取り組み

平成26年度 トピックス

- 4月14日 皇太子殿下行啓
（「黒部と槍 冠松次郎と穂刈三寿雄」展）
- 4月22日 第1回外部評価委員会
外部評価方法の確認及び平成25年度事業実績報告
- 5月29日 第2回外部評価委員会
平成25年度事業全部門総括と最終評定を討議
- 6月19日 記者懇談会
平成25年度事業実績及び平成26年度活動方針説明
- 6月 3日 安倍首相夫人映画鑑賞（OYAKO）
- 7月 7日 写真映像文化振興支援協議会理事会及び懇親会
平成25年度の事業実績報告及びギャラリー
ツアー・懇親会の実施
- 7月17日 夏の夜間開館延長実施
木・金の夜間開館日20時までを21時まで延長
～9月19日
- 9月 4日 作品資料収蔵委員会
平成26年度新規収蔵作品の選定
- 9月15日 敬老の日 展覧会無料サービス
65歳以上のお客様は展覧会が全て無料となる
サービスを実施
- 9月18日 企画諮問会議
平成25年度事業実績及び平成26年度活動方針説明
総合開館20周年記念展（平成29年度以降）の企画
提案
- 9月22日 クロージング・レセプション
- 9月24日 大規模改修工事のため全館休館
- 12月16日 東京都写真美術館リニューアル準備室開室

－受賞－

- 「佐藤時啓 光－呼吸 そこにいる、そこにはいない」展
平成26年度（第65回）芸術選奨文部科学大臣賞（美術）
第31回写真の町東川賞 国内作家賞
- 「高谷史郎 明るい部屋」展
平成26年度（第65回）芸術選奨文部科学大臣賞
（メディア芸術）